歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-20	更新日	2025/1/31
サイト名	青い海と緑の松林を背景に朱の神殿～日御碕(ひのみさき)神社		

基本情報		
	区分	☑有形　□無形　□その他
	所在地	出雲市大社町日御碕455番地
	指定別	「日御碕神社　日沈宮(下の宮)(本殿/幣殿、拝殿/玉垣/禊所/回廊/楼門/門客人社2棟)」 「日御碕神社　神の宮(上の宮)(本殿/幣殿、拝殿/玉垣/玉垣/鳥居2棟)」　国指定　(指定番号01214)
	種別	重要文化財・建造物
	指定／登録年月日	1953(昭和28)年3月31日
	管理団体／モニタリング	日御碕神社 大山隠岐国立公園
	周辺施設／アクセス	☑トイレ　☑売店　☑飲食店　☑駐車場(25台程度) ／山陰道出雲ICから車で約30分・JR出雲市駅からバスで約60分「日御碕」下車すぐ
	留意点	

サイトの解説		
	歴史・文化	日御碕神社は、島根県出雲市の日御碕に鎮座する神社。出雲大社の「祖神(おやがみ)さま」として崇敬を集めている。日御碕神社には上下の2社あり、上の宮を神の宮、下の宮を日沈宮(ひしずみのみや、日沉宮)と称し、総称して日御碕神社(日御碕大神宮)とする。「神の宮」には素盞嗚尊(スサノオノミコト)が祀られ、「日沈宮」には神話の中でスサノオの姉とされる天照大御神(アマテラスオオミカミ)が祀られている。「日の本の昼を守る」伊勢神宮に対して、日御碕神社は「日の本の夜を守る」とされ、古来より出雲は日が沈む聖地として認識されてきた。古くから朝廷からの崇敬が厚く、幕府や大名からの崇敬も深い。松江藩初代藩主・堀尾忠氏、江戸幕府も保護しており山陰においては出雲大社に継ぐ大社とされている。 日沈宮、神の宮の現・社殿は江戸幕府の3代将軍・徳川家光の命で松江藩主・京極忠高の手によって日光東照宮完成直後に造営が始まり、1644(寛永21)年、松平直政の代で竣工。両宮とも、日光東照宮を模した色彩豊かな権現造りであり、日沈宮、神の宮、楼門、回廊、禊所、宝庫、門客人社など12棟の社殿や鳥居2基、石灯篭5基が国の重要文化財に指定されている。 稲佐の浜から日御碕灯台へ続く日御碕街道からは、日御碕神社全体を俯瞰する事ができるが、青い日本海と緑の松林を背景に「朱の神殿」は鮮やかさを際立たせた景観は、わが国の自然と文化が調和する伝統的な歴史景観を現出している。
	地形・地質、生物・生態等	日御碕神社周辺には泥岩層が分布している。泥岩は火山岩類が主体をなす島根半島の北西域のなかでは限られているが、その分布は東西方向に広がっている。そのため、神社周辺は侵食によって西に開けた谷地形をなしている。神社の西の鳥居は、このような地形を反映しており、神社の日沈宮(ひしずみのみや)として神聖化した夕日を演出している。神社内では、泥岩を貫き、日御碕の溶岩ドームの形成に関わった流紋岩火砕岩も見られる。

写真・図等

全景

日沈宮

参考文献	